

厚生労働大臣指定法人・一般社団法人 いのち支える自殺対策推進センター

革新的自殺研究推進プログラム

令和 7 年度開催 自殺対策推進レアール（令和 6 年度委託研究成果報告会）

参加者アンケート結果

【ポイント】

- 自殺対策推進レアールへの参加満足度は、「満足」と回答した割合が最も多く 60.1%、次いで「やや満足」が 38.6% を占めた。「やや不満」は 1.3% にとどまり、「不満」との回答はなく、全体として非常に高い満足度が得られている。領域別にみても、いずれの領域でも概ね高い満足度が示された。
- 11 の研究課題別に、発表内容が参考になったか尋ねたところ、「大変参考になった」「やや参考になった」と回答した割合は 82.1~100.0% と、いずれも高い評価が得られた。
- 自殺対策推進レアールへの意見としては、異なる団体・分野との連携強化の必要性や、データに基づく支援についての意見が多かった。研究成果を現場で生かしたいという前向きな声と、実践の難しさが示された。

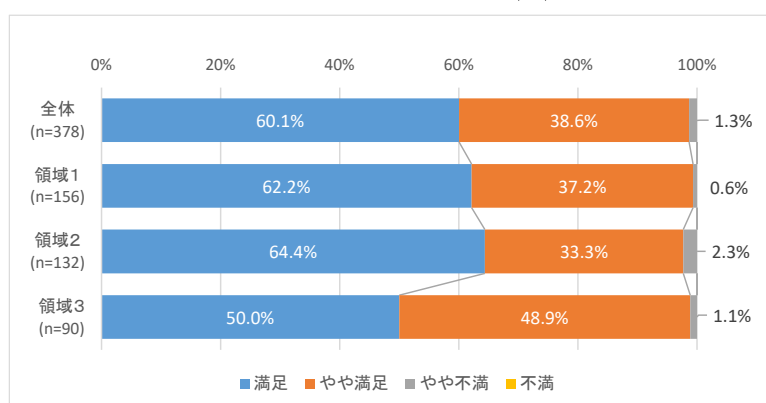
1. はじめに

「革新的自殺研究推進プログラム自殺対策推進レアール(令和 6 年度委託研究中間・最終成果報告会)」¹をオンラインで開催し、地方自治体職員の方を中心に 3 日間で延べ約 800 人の参加があった。アンケートは 3 つの領域ごとに行った。全体（領域 1~3 の延べ）では 378 件(46.7%)の回答があった。領域別には、領域 1:156 件(44.2%)、領域 2:132 件(55.2%)、領域 3:90 件(44.3%)の回答があった（図表 1）。

図表 1 自殺対策推進レアールの開催とアンケート実施

領域名	開催日	参加者	アンケート	
			回答者	回答率
全体（領域1~3の合計。延べ）	—	809	378	46.7%
領域1 子ども・若者に対する自殺対策	2025年8月29日(金)	353	156	44.2%
領域2 自殺ハイリスク群の実態分析とアプローチ	2025年9月2日(火)	253	132	52.2%
領域3 ビッグデータ・AI等を活用した自殺対策	2025年9月4日(木)	203	90	44.3%

図表 2 レアール参加満足度（%）



2. 自殺対策推進レアールの満足度

自殺対策推進レアールの満足度について、全体（領域 1~3 の延べ）では「満足」と回答した割合が最も多く 60.1%、次いで「やや満足」が 38.6% を占めた。「やや不満」は 1.3% にとどまり、「不満」との回答はなかった。以上から、全体として非常に高い満足度が得られたといえる（図表 2）。

領域別にみると、「満足」と回答した割合は 領域 1 が 62.2%、領域 2 が 64.4% と特に高く、いずれも 6 割を超えている。領域 3 の「満足」は 50.0% にとどまったものの、「やや満足」が比較的多くを占めており、どの領域においても概ね高い満足度が示されたといえる。

満足度の理由について自由記述の回答を見ると、「満足」「やや満足」の回答者からは、「最新の知識や考え方を得られたこと」「研究結果が実務で活用できる可能性を持っていること」「研究内容の専門性と分

¹ 令和 7 年度開催 自殺対策推進レアール（令和 6 年度委託研究成果報告会）の開催レポートは [こちら](#)

かりやすさ」等に関する肯定的な意見が多く見られた。

「やや不満」の回答者からは、「講義内容が難しい」「専門用語がわかりにくい」「講演会の一人に対する時間をもう少し長くしてほしい」といった意見があげられており、内容の難易度・専門用語の使用方法・発表時間の設定等などについての課題が示唆された。

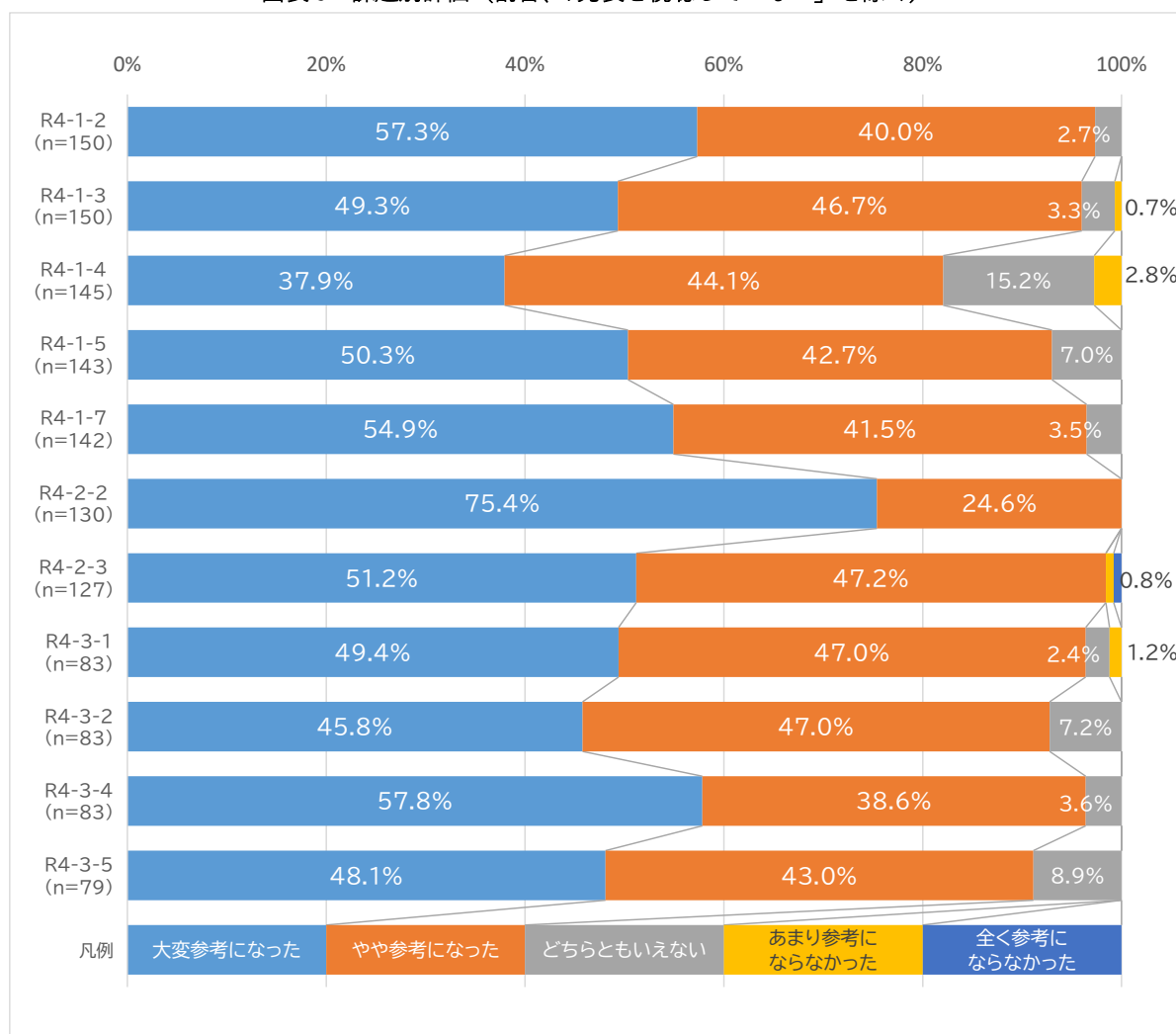
3. 課題別発表についての評価

11の研究課題別に、発表が参考になったかどうかを尋ねたところ、「大変参考になった」「やや参考になった」と回答した割合は 82.1～100.0% と、いずれも高い評価が得られた（図表 3）。

中でも、研究課題 R4-2-2「非行を有するハイリスクな青少年の自殺・自傷行為の理解・予防・対応策に関する包括的な検討」の評価が高く、「大変参考になった」との回答は 75.4%、「やや参考になった」を含めると 100.0% が「参考になった」と回答している。自由記述では、「若年者の自傷行為について、思い込みやスティグマを解消できた」といった、支援者が持つ誤解の解消につながったという意見、また自傷行為と非行との関連性に関する知見、研究代表者が作成したパンフレットの有用性を評価する声が多くみられた。

このほか、「大変参考になった」と回答した割合が比較的多かった研究課題として、R4-3-4「過量服薬のゲートキーパーの養成を目指したビッグデータ解析と新規養成システムの構築」および R4-1-2「SOS の出し方教育における地域連携モデルの開発」が挙げられる。

図表 3 課題別評価（割合、「発表を視聴していない」を除く）



4. 自殺対策推進レアル全体に対する意見・感想

自殺対策推進レアル全体に対する意見としては、異なる団体や分野との連携・協働の重要性を指摘する声が多く寄せられた。自殺対策においては、異業種間で協力体制を構築することが課題であることへの言及も見られ、この点への関心の高さがうかがえた。

また、データに基づく支援の重要性や、最新ツールの活用に伴う課題、さらにはそれを扱う支援者側の体制の在り方に関する意見も多かった。研究成果を現場で活用したい、新たな学びや気づきを持ち帰って職場で共有したいという前向きな意見が少なくない一方で、その実現の難しさを指摘する声が示された。

図表 4 令和 6 年度革新的自殺研究推進プログラム 委託研究課題一覧

課題番号	課題名	研究代表者
領域1：子ども・若者に対する自殺対策		
R4-1-2	SOSの出し方教育における地域連携モデルの開発	江畑 慎吾
R4-1-3	児童生徒の自殺リスク予測アルゴリズムの解明：自殺リスク評価ツール（RAMPS）を活用した全国小中高等学校での大規模実証研究によって	北川 裕子
R4-1-4	全小児科医を対象とした大規模調査：「小児科による自殺防止セーフティネット」構築へ向けた課題整理と政策提言に関する研究	呉 宗憲
R4-1-5	子どもの抑うつに対する遠隔メンタルヘルスケアの社会実装と早期受療システム整備-KOKOROBOと子どもの精神疾患レジストリ連携-	佐々木 剛
R4-1-7	学校において教職員がゲートキーパーとして機能するためには何が必要か？—チーム学校によるマルチレベルな自殺予防体制の支援・組織モデルの構築—	目久田 純一
領域2：自殺ハイリスク群の実態分析とアプローチ		
R4-2-2	非行を有するハイリスクな青少年の自殺・自傷行為の理解・予防・対応策に関する包括的な検討	高橋 哲
R4-2-3	がん患者の自殺に関する全国実態分析とがん診療病院自殺対策プログラムの検討	藤森 麻衣子
領域3：ビッグデータ・AI等を活用した自殺対策		
R4-3-1	視覚情報のAI分析を活用したメンタルヘルスDXプロジェクト	奥山 純子
R4-3-2	IoT活用による子どもの援助希求行動の促進に関する研究	久保 順也
R4-3-4	過量服薬のゲートキーパーの養成を目指したビッグデータ解析と新規養成システムの構築：地域の薬局を「気付き」と「傾聴」の拠点とした過量服薬の防止	永島 一輝
R4-3-5	兵庫県における医療ビッグデータと法医学データを組み合わせたコホートデータベースを用いたリアルワールドデータによる自殺リスクの検討	宮森 大輔

■ アンケート結果問い合わせ先（メール）： 厚生労働大臣指定法人・一般社団法人 いのち支える自殺対策推進センター
革新的自殺研究推進プログラム事務局 irpsc@jscp.or.jp